

【活動量計でみる四変】

はじめに

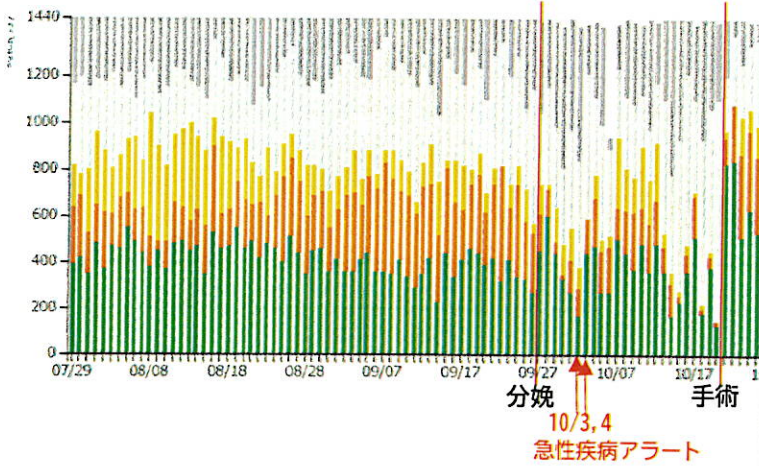
ある農場でのケトーシス牛、第四胃左方変位(以下、“LDA”)の手術を行った2頭の症例を活動量計(U-motion)を用いて紹介したいと思います。

例を紹介

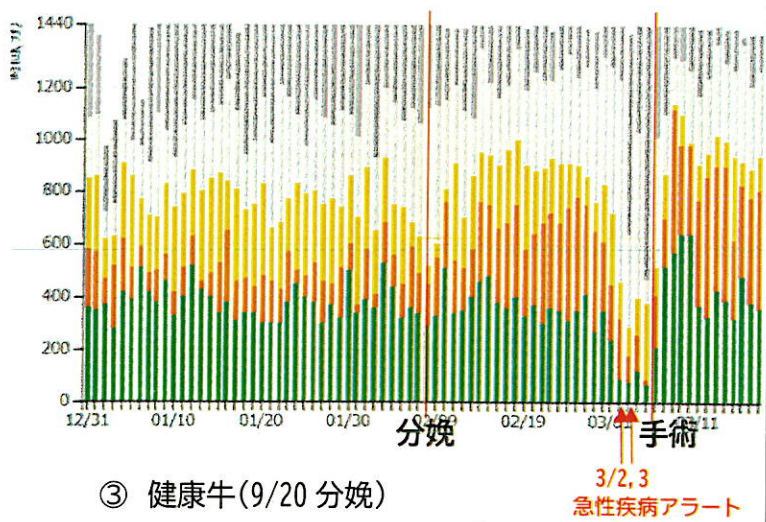
■ 採食 ■ 動態 ■ 起立(反芻) ■ 横臥(反芻) ■ 起立(非活動) ■ 横臥(非活動)

2症例とも急性疾病アラートが出ており、初診時にケトーシス陽性、第四胃左方変位(LDA)と診断し内科療法を行い、翌日も改善なく手術を実施

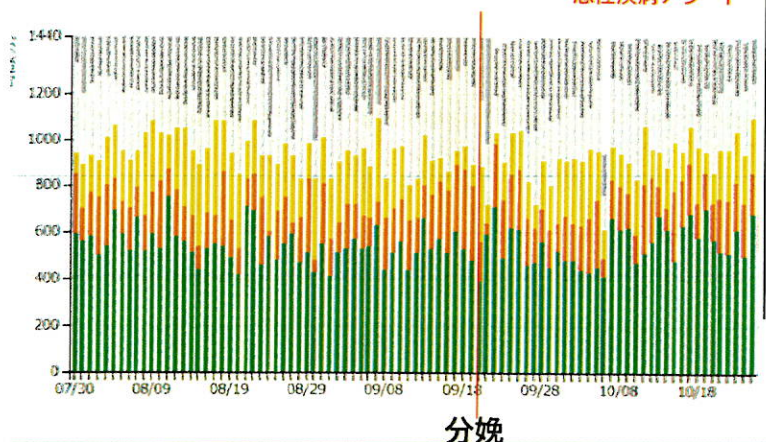
① 9/27分娩、10/21 LDA手術



② 2/8分娩、3/6 LDA手術



③ 健康牛(9/20分娩)



分娩前から反芻低下

様々な研究で、分娩後にケトーシスになる牛では分娩前から反芻時間が減少することがわかっています。実際に今回の症例でも、以下のようになっています。

反芻時間 (起立時+横臥時)	分娩前 (分)	分娩後 (分)	手術後 (分)
①	400-500	200-400	500
②	300-400	300-400	500-600
③	300-400	300-400	-

この活動量計をみていると、反芻時間や動態時間は個体差がかなりあることがわかります。また、その反芻時間等が一定して、変動がなければ健康状態に問題はないようです。

活動量計からの推測

規模の大きい農場では搾乳担当者と牛の健康チェック担当者、そして経営者が異なることは大いにあると思います。そのような農場では全員が共通して見ることができ活動量計のようなデバイスがあっても良いのかな?と思います。発情発見等のメリットもありますが、それだけでなく、あまり目の行き届かない乾乳牛の反芻低下に気付くことができ、疾病アラート等で教えてくれるのではないのでしょうか。

さいごに

このグラフは誰が見ても牛の不調に気づけるのではないかと思います。また、疾病傾向がある個体をお知らせするアラートを活用し、疾病アラートが出た牛を先ずはよく観察することで病気の早期発見・早期治療に役立てる事も出来そうです。乾乳の時点で調子を崩しているのであれば、四変にならないように対策を練ることもできます。今回は紹介というだけですが、今後もこのような事例をお話できたらと思います。



私事ですが、11月に入籍致しました。

新姓は村上ですが、旧姓のまま呼んでいただくことになるとと思いますので、変わらず、これからもよろしくお願い申し上げます。今年も1年ありがとうございました。

村上 可奈江(旧姓 小方)



Total Herd Management Service